

この歴史部通信では、歴史部の活動についてレポートします。今回は、1月26日に行った神奈川県鎌倉市方面へのフィールドワークの報告です。

## 円覚寺

円覚寺は執権北条時宗が中国(宋)より招いた無学祖元禅師により、国家の鎮護、禅を広めたいという願いや、蒙古襲来による殉死者を弔うために建てられました。山門の東から長い急な石段を登った上にある鐘(おおがね)は、1301年に物部国光によって作られた鎌倉時代の代表的な名鐘で、昭和28年に国宝に指定された関東地方最大の鐘です。鐘に彫られている銘文から、職人の技術の丁寧さを感じられました。円覚寺は国宝・文化財に指定されている建物や自然が多く、落ち着いた雰囲気のため心も身体もリフレッシュすることが出来ます。(加瀬 紫音)



## 建長寺

建長寺は鎌倉五代執権北条時頼によって創建された寺院です。関東最大級の法堂があり、天井には龍の絵が描かれています。あまりの大きさに圧倒されました。また、国の名勝に指定されている庭園があり、そこには心字池と呼ばれる「心」の文字をかたどって造られた池があります。座って休憩できる場所もあり、とても静かで落ち着いた環境でした。(宇賀神 綾花)



## 鶴岡八幡宮

三ヶ所目に、鶴岡八幡宮に訪れました。鶴岡八幡宮は関東の三大八幡宮の一社であり、「鎌倉の守り神」、「武士の守り神」として人々の精神のよりどころとなっていた場所です。この日はちょうど、鶴岡厄除大祭が行われており、たくさんの人で賑わっていました。参拝をした後、鶴岡八幡宮・宝物殿で鶴岡八幡宮に伝わる、国宝をはじめとした古神宝類などの展示を観ました。鎌倉の歴史をより深く学ぶことができました。(高塚 律)

## しらす井

昼食はしらす井をいただきました。湘南地域では江戸時代からしらす漁が行われていました。漁場が近く、新鮮で瑞々しい状態でしらすを水揚げできるため、しらすを生そのままに乗せるしらす井がこの地域に定着しました。新鮮な生のしらすは銀色に透き通っており、キラキラと輝いていました。生臭さはなく、つると、とろけながらも、しらす一匹一匹の食感を鮮明に感じられました。しらすですが苦手な方でもとても食べやすくなっています。(廣田 愛)



## 明治記念大磯邸園

明治記念大磯邸園は、2018年に「明治150年」を記念すると同時に、明治期における立憲政治の確立に貢献した先人の業績を後世に伝えるために設置されました。明治期には海水浴が医療行為として親しまれており、大磯は日本初の海水浴場としても栄えていました。陸奥宗光別邸跡では海水浴から戻って縁側からお風呂まで畳を濡らさず歩けるよう、廊下に縁甲板という水に丈夫な木材が使われるなどの工夫が施されていたり、旧大隈重信別邸の松林から海が見えたりしたことに当時の海水浴場としての大磯の名残を感じることができました。(坂井 絢香)



鶴岡八幡宮にて